

大阪府立大冠高等学校 令和4年度 37期生入学式 学校長式辞

新入生の皆さん、大冠高校へのご入学おめでとうございます。今、この場に居られる感動を胸に、自ら志望した大冠高校が自分にとって最高の居場所となるよう、強い気持ちを持って高校生活のスタートをきってください。

また、新型コロナウイルス感染症に係る対応により、本日この会場に、希望される全ての保護者の方々に入場いただくことが叶いませんでしたが、新入生のご家族の皆さまにも、今日の良き日を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

本日の式典は、参列者の制限に加え、保護者の方々は清聴等で行う対応につきまして、ご理解とご協力いただいておりますことに、感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さんは、中学生生活の約2年間で、新型コロナウイルス感染症に係る様々な制約があるなかで、不安やストレスを抱え、過ごしたことと思います。

しかし、そのような状況にありながらも、中学校の課程を修了し、大冠高校への入学を果たされたことに敬意を表します。よく頑張りました。

今日は、私から、皆さんが高校生活を始めるにあたり、2つのメッセージを送ります。

1つ目は「挨拶の大切さ」についてです。大冠高校には、気持ちの良い挨拶をしてくれる生徒が沢山います。挨拶はコミュニケーションの基本で、相手の存在を認めることでもあります。校内で挨拶がよく交わされていることは、同じ学校の仲間というお互いの意思表示でもあります。

本校に、外部からいらっしゃった方から、必ずといってよいほど、「生徒の皆さんが、よく挨拶してくれます」と言っていただきます。私はそんな大冠高校の生徒を、頼もしく、嬉しく、そして、誇りに感じています。

是非、新入生の皆さんも、「おはようございます」「こんにちは」の日常の挨拶とともに、感謝を伝える「ありがとう」、誤ったことをしてしまった時の「ごめんなさい」など大切に、お互い認め合い、気持ちの良くなる大冠高校を築いていきましょう。

2つ目は「目標を持ち、かつ実行する」ことです。皆さんは、これから始まる高校生活での具体的な目標を、今、持っていますか。

部活動に一生懸命取り組む、行事に積極的に参加する、何か新しいことを始めるなど。

目標を持ち、計画を立てることは案外できるのですが、大事なのは、実行する、行動に移すこと。そして、その行動を、さらに、継続させることで、目標の達成に近づいていくのです。

具体的には、目標や、やりたい事ができたら、自分が少しずつでも良いから、続けることができる計画を立てることが大事です。また、目標そのものも、取り組みを続けることで、実現可能なものに設定することが大切です。

高校生活を充実させるうえでも、「目標を持ち、かつ実行する」、このサイクルを大切に、少しずつステップアップするよう取り組んでください。

式辞の結びに、パナソニックの創業者である、松下幸之助さんの有名な詩「道」を送ります。

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。

広いときもある。狭いときもある。のぼりもあればくだりもある。坦々としたときもあれば、かきわけかきわけ汗するときもある。この道がはたしてよいのか悪いのか、思案に余るときもあろう。慰めを求めたくなるときもあろう。しかし、しょせんはこの道しかないのではないか。あきらめろというのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。

自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。

高校生活、良いこともあればしんどいこともあります。新入生の皆さんに、どんなときも自分を信じ、自分の力で歩み続けてほしいと願い、入学式でこの詩を送りました。私たち教職員一同は、皆さんを応援しています。

37期生の皆さんの高校生活がより充実したものとなるよう祈念いたしまして、私の式辞といたします。

令和4年4月8日

大阪府立大冠高等学校長

田尻 誠